

第3回旭川駅周辺かわまちづくり検討会 議事要旨

日時：令和6年2月15日(木) 18:30～19:45

場所：旭川市役所 総合庁舎7階 大会議室C

出席者：10名（出席者名簿のとおり）

議題：前回検討会等の振り返り・今年度成果の確認・次年度以降の推進体制

1. 議事

(1) 前回検討会等の振り返りについて

事務局(旭川市)から前回検討会等の概要の説明を行い、委員の了承を得た。

(2) 今年度成果の確認について

事務局(旭川市)から今年度成果に関する説明を行い、委員から以下の発言があった。

1) サイクリング

【委員 A】

サイクリングマップに高低差が表記されている。掲載する情報をどう表記すればうまく伝わるか、皆で意見を出し合って決めていったらよいと思う。

【委員 B】

「100km サイクリング in 旭川」の開催に向けた準備をしている。かわまちづくりとしての特徴を活かせることがあれば、意見を組み込んでいきたい。

2) アクティビティ

【座長】

「あさひかわ雪あかり」のようなイルミネーションイベントを河川敷を利用し実施できないか。

【委員 A】

橋や川をライトアップしている観光地があると思う。例えば、イルミネーションの中で歩くスキーをやるとか、人と費用はかかるが何か工夫はできると思う。ライトアップすることで人が集まるので、経済効果がどの程度生まれるかも考えながら、何か他でやっていないこと、話題づくり、興味になることを考えていくことが重要である。

【座長】

夜に観光客を呼べると宿泊に繋がる。旭川市内で午後8～9時まで楽しめる何か欲しい。

【委員 A】

「ナイトタイムエコノミー」として歩くスキー等を行うのであれば、適正な貸し出し料金等を考えていく必要がある。また、担い手に夜働いてもらって適正な手数料が払われる仕組みも大事だと思う。

【委員 C】

スノーボードの原型のような雪板というアイテムがある。旭川の家具メーカー3社とコラボして、参加者から費用をもらって、みんなで作って滑って楽しむというワークショップを行っている。安全面に配慮しながら河川敷の堤防で滑るだけで結構楽しいと思う。雪板は色々な遊び方ができるので、冬のコンテンツになるかもしれない。

【座長】

昔流行ったミニスキーは、子どもたちの間でブレイクするかもしれない。観光客も喜んで購入すると思う。

【委員 D】

絵面として発信し、市民の人にもわかってもらう。旭川市では格好よいことを行っていると思ってもらうために、継続していくことが重要である。

3) 環境教育

【委員 E】

水辺空間の活用はどうしても季節的に夏場に偏ってしまう。忠別川は、意外と河畔林の中に巨木が多く残っていて、その樹木につく着氷現象が割と豊かに見られる。冬の利活用の一部として取り込んでいってはどうか。

【委員 F】

旭川市内の小学校に配布されている「川の本」別冊がとてもよくできているので、こういった宝をつないで見える化して発信して、ニーズが高まっていけばよいと思う。

【委員 G】

まちなかキャンパスは学生が主体的に調べてやっているのだから、川をどのようにピックアップしてもらうかを色々考えなければいけない。小学生の年齢から川について学んでいけば、高校生になった時に自然と繋がっていくと思う。

【委員 D】

旭川として一貫性があるようなことができるよ。例えば、最近やられていない河川敷での炊事遠足を復活してもらうとか。何か川と触れることを一貫してやっていけると、かわまちづくりになってくると思う。そういう取り組みを旭川市がやることでまち全体の雰囲気もとてもよくなる。

4) ICT を活用した情報提供

委員からの意見なし

5) 水辺利用のルール

【委員 F】

渦が巻いている、深みがある、流れが速いといった川の中の危険な場所を小学生がどこまで考えられるかというところがあるので、具体的なイメージを入れたら活用しやすくなると思う。

【委員 H】

何を推進したいのか、注意したいのか、どちらに重点を置いているのか、わかりにくい。重点を置くなら推進したいことになると思うが、実態として子どもたちはまだ川には行かない。子どもたちに周知したいのであれば、川の様子がわかる QR コードをつけると興味が湧くかもしれない。ルールを推進するのであれば、紙で配布した方がよい。

【委員 I】

4～8月に川下りができるとあるが、現時点でできる状況ではない。既に川で遊べるようなイメージが掲載されているが、子どもを対象とした遊びはまだやられていないので、少し早い感じがする。これから子どもたちを川に来てもらうことを考えると、ライフジャケットを着て、こういうところが危ない、ここまではよいといったことを親も含めて一緒にやっていく必要がある。

【委員 D】

川で遊ぶ際の最大のルールはライフジャケットを着て遊ぶことなので、ライフジャケットの必要性をきちんと謳うことで、そこから安全に川遊びをしていくというところに繋がると思う。

【委員 H】

情報量が多いので、推進したいこと、注意してほしいことは混在させないほうがよい。今後、ホームページに掲載するにしても配布するにしても、情報を整理して表と裏で目的を明確にしたほうがわかりやすいと思う。

【委員 D】

危険な場所に行くのはもちろんだが、行ってみようとなった時もライフジャケットを持っていくというところを強調してほしい。

【委員 E】

忠別川の自然環境としての魅力と危険を提示する必要がある。分けて示して、川に近づくな、あるいはサケが見られるというのではなくて、例えば、サケを見るのであればどういう点に注意しないといけないか、関連づけたほうが効果的だと思う。分けて示しても、目に入っても多分頭の中に入らない。忠別川の自然環境や利用の仕方等の情報を提示する必要がある。

(3) 次年度以降の推進体制

事務局(旭川市)から次年度以降の推進体制に関する説明を行い、委員から以下の発言があった。

【委員 E】

「大雪山カムイミントラジオパーク構想」との連携が、今後重要になってくると思う。ワーキングに周辺自治体が入ってくると規模が大きくなり過ぎるので、例えば、忠別川の神楽岡公園等で活動している「あさひかわジオパークの会」等に参加を呼びかけてみるのもよいと思う。

【事務局(旭川市)】

推進体制(案)のメンバー以外で参画が望ましいと考えられる組織があれば、ワーキングに参加し議論していただくこともできると思う。ジオパークについては、旭川市の担当部署に確認する。

(4) その他

その他関連事項について、委員から次の発言があった。

【委員 C】

鏡池のような場所は他にないので、子どもたちに伝えていくという意味でも、シビックプライドの機運を高めていけたらいいと思う。事業を進める上でポイントになってくると思う。

【委員 I】

次年度ワーキングでの意見は、今後の施設設計に反映されるのか、設計内容等の情報共有にとどまるのか、それとも、設計内容をワーキングで判断するような仕組みになるのか。

【事務局(旭川開発建設部)】

ワーキングからご意見をいただきながら、施設設計を進めていく予定である。

【委員 A】

観光情報センターで歩くスキーやスノーシューを貸し出しているが、利用者の約3割が外国人なので、インバウンドにも何か伝えることを考えていくのがよいと思う。利用者の意見を吸い上げることで事業のヒントが見つかるかもしれないので、アンケートを行っていきたい。

【委員 D】

旭岳、JR 旭川駅、忠別川が収まった写真があると、旭川のまちを表す格好いい絵面になる。

※旭川開発建設部と旭川市は、当該検討会で作成した成果物について、旭川市ホームページでの公表等、かわまちづくり計画推進工程に記載した内容で使用することを協議し、双方了解している。

以上